

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩心会 発行

現在 会員 数名  
177 名  
275 名  
63 名  
(515 名)

62年4月 地区 現在  
逗子地区 地区 現在  
葉山地区 地区 現在  
大船地区 地区 現在  
合計 ( )

62年4月号 (177号)  
発行 者 萃  
根 岸 岳  
編 集 者  
中 村 愛 岳

## 詩吟と葉月支部

葉月支部 青木 梅風

私達葉月支部の発足は、商店街婦人部として、親睦の意味で何か趣味をということになり、町内に詩吟の先生がいられるから詩吟をやりましょうと意見が一致し、早速広瀬先生にお願いしたところ、心よく承諾して下さい、婦人部発足と同時の54年8月誕生し、其の年11月、正式に碩心会に入会致しました。

先生は熱心に御指導下さり、最初は初めての人はかりで、オームの口写し仲間と云えども、恥ずかしくて、動悸を感じつつ、小聲で吟じました。金曜日の練習の人は皆商人で、昼は仕事に活躍し、夜は疲れも出て、ともすれば休みたくなる日も間々ありますが、同志が集まり、練習の合間には笑声の飛び交う教場(広瀬先生宅)は楽しい心の憩いの場となり、ストレス解消ともなりません。先生もこの様を私達に大変協力的で、充実した御指導をして下さいます。

揃って奥伝まで頑張ってこられたのも、良き師、良き人生の先輩、良き友に恵まれたことと感謝しております。又吟を通じて大勢の方々を知り合うことが出来、本当に

詩吟を続けて来て良かったと、今更ながら感銘しております。これからも趣味として練習に励みたいと思っております。

準師範認許 (一月二十五日付)

宇都宮徳風さんが右認許されました。おめでとうございます。

奥伝合格 (四月一日付)

左記の方々が右合格されました。おめでとうございます。

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 725 曾村静風 | 285 伊藤峰風 | 288 松原幸風 |
| 289 石戸倫風 | 290 青木梅風 | 291 金子訓風 |
| 292 菊池光風 | 293 山上良風 | 294 杉山初風 |
| 298 高岡静風 |          |          |

### ◇ 選 抜 予 選 会

とき・62年4月19日(日)  
ところ・平塚農業会館

- 碩心会から左記の方が出場されます。
- |           |          |
|-----------|----------|
| 上村象風(堀内)  | 鈴木壽風(堀内) |
| 立沢御風(逗子B) | 千葉美風(堀内) |
| 松井正風(逗子A) | 土屋純風(真澄) |

### ◇ 県 本 部 総 会

とき・62年5月10日(日)10時より  
ところ・平塚農業会館

傾心会支部別会員数一覧表(27支部・515名)

62. 4. 1現在

支部名	会員数	指導者名	支部名	会員数	指導者名	支部名	会員数	指導者名
蓮子A	74	根岸・一柳・※	堀内	86	根岸小幸(加藤)	大船A	9	根岸・岩崎
蓮子B	10	三井・立沢			中林(幸愛)佐藤	大船B	26	三井・森田・田上
桜山A	13	三井			矢嶋白井(寿麗)	戸塚	7	鈴木(※)
桜山B	7	広瀬			石渡小形(千葉美)	松和	21	木村・宇都宮
沼山	18	三井・松野・清水			鈴木(守)・守谷			
沼ノ根	5	三井			加藤(相)			
山ノ根	17	千葉(朝)・千葉(香)			黒崎			
銀詠	21	村田			伊藤			
真澄	12	広瀬			寺脇			
葉月		※金指・松井			沼田(朝)・沼田(義)			
			沼田(朝)・渡辺					
			竹石					
			井沢					
			秋元					
			佐久間・上村					
			杉山					
			行谷					

◎ 常任理事会ひらかる

日時 62年3月9日(月)午後7時より  
場所 桜山下会館

1 50周年記念吟道大会の各役員選出決定について  
2 同運営に係る業務分掌の細則について  
3 爾後5年後の大会費用の準備についての積立方式の継続について

大会役員決定

大会名誉会長 松井岳洋  
大会会長 根岸岳萃  
大会副会長 加藤岳相 小峰桜岳  
総括 三井岳隴 加藤圭岳

受付(来賓)  
◎中村愛岳 ○杉山雪岳 伊藤峰岳  
石川豊風 加藤朋風 一之瀬汀風  
板橋雅風 鈴木英山 相多芳山

受付(会員)  
◎千葉香岳 ○森田嶺岳 大石春岳  
黒崎李岳 村田静岳 渡辺秀岳  
石渡桂岳 沼田義岳 田上洲風  
秋吉笙風

進行  
◎千葉劔岳 ○松野宝岳 綾部秋岳  
鈴木容岳 上村象風 一柳道風  
木村松風 立沢御風 千葉美風  
松井正風 大屋正風

◎中村幸岳 ○南部政岳 清水耀岳  
渡辺誠風 栗原文風 橋本果風  
長谷川清山

◎竹石憲岳 ○磯部誠岳 綱川晃岳  
加藤聖風 吉原慎風 小形雄風  
吉井道山 村井清山 加藤健山

◎沼田沈岳 ○鈴木孝岳 佐藤湧岳  
矢嶋悦岳 広瀬翔岳 白井麗岳  
荒木笙岳 佐久間爽風 田辺伯風  
寺脇歌風 星野輝風 青木梅風  
◎鈴木萃岳 ○岩崎恵岳 白井寿岳  
宇都宮徳風

◎森田暁岳 ○金指萌風 鈴木蒼山  
秋元梁岳 ○井沢潮岳 行谷佳風  
岡野和風 (以上75名)

◎印責任者 ○印刷責任者

次期五十五周年大会積立について

お手数をかけておりました五十周年大会積立金も五月で終了します。ご協力を感じし御礼申し上げます。次期五十五周年大会の財源につきましては、過日の常任理事会で左記の通り決定されました。

一、次期大会の運営財源については、六十年三年度から準備する。

一、会費の中に大会準備金を組入れて徴収し、別途預金積立をする。

一、会費値上の額については、後日討議し決定する。  
(会計部長 秋元)

構成吟「碩心会のあゆみ」

出吟・演者 きままる

50周年大会プログラムに構成吟「碩心会のあゆみ」を入れることになりました。スライド映写については、県企画副部長の熊沢正岳先生に大変お世話になることになりました。紙上より厚く御礼申し上げます。

映写：熊沢正岳

スライド

ナレーター：佐久間爽馬、西山蓉山  
吟(自然と人生)：鈴木心風、木野本明風  
〃(舟艇守の尺八)：松井岳洋、洋子  
〃(明治天皇御製)：木村松風、先住  
〃(昭憲皇太后御歌)：清田輝風

書道吟

書：松井岳洋  
吟：根岸伍萃

華道吟

華：岩崎恵岳、石渡桂岳、石戸倫風  
吟：村田静岳、伊藤峰岳、寺脇歌風  
立沢御風、三壁照風、大坪孝山

詩舞

森戸懐古

舞：中村愛岳、一之瀬汀風  
吟：伊藤峰風、加藤詠山  
鈴木孝岳、矢嶋悦岳

詩舞

田越川 祝唱

舞：千葉香岳、綾部秋岳、西村昌岳  
安田寿風、磯村朋風、前野苑泉  
吟：上村象風、松井正風

詩舞 小林紫風、佐藤湧岳、大石春岳  
舞：白井麗岳、杉本惠風、中村三代  
静御前 吟：杉山雪岳、広瀬翔岳

高令者表彰

50周年大会に際し満80才以上の高令者の方々が表彰されます。(45周年大会に表彰された方を除きます)

- 1 武井桃山(松和) M 34 3 3 86才
- 2 関野啓風(山ノ根) M 36 4 4 84才
- 3 栗原丈風(山ノ根) M 37 3 6 83才
- 4 中村虎泉(逗子A) M 37 11 4 82才
- 5 武藤薫風(松和) M 38 1 29 82才
- 6 宮田司泉(逗子A) M 38 8 17 81才
- 7 近藤尚風(桜山B) M 38 9 6 81才
- 8 鈴木尚風(一色A) M 39 1 17 81才
- 9 三井岳壠(逗子A) M 40 2 7 80才

吟友故下田周風さんをしのぶ

矢嶋 悦岳

人生夢の如く又煙の如し……追悼吟のマイクを持つ根岸先生の傍で、とめどなく流れる涙に声も出ず、たゞたゞ会葬にお集り下さった諸先生、吟友の方々に御礼申し上げます。さぞ喜んでであろう下田さんを偲び、長い交流に思いを馳せました。

「おばさん、会館で詩吟の教室があるって、入ってみようよ」「行ってみようか」二人してお邪魔したのが昭和四十五年正月、それから十八年……毎年の初吟会、文化祭、何を吟じようかと話し合い、ガラス戸をしめた店先で大声で練習し、道行く人に立ち止まられたこともしばしばありました。文化祭で本能寺を連吟し舞台を下りると、根岸先生から「よかったよ」と言われ、手をとって合って喜び、コンクールに入賞すると涙して肩を抱きあい、思い出は尽くるところをしりません。

五、六年前から体調をくずし、なかなか会にも出てこれなくなりましたが、吟だけは絶対に止めないよ、死ぬ迄楽しみに続けるんだと言いつつながら、なんと早々に旅立ってしまったのでしょうか。

今日の日曜日、吟友の大石さん、佐藤さんと連れ立ってお墓詣りに行きました。花を供え、香をたて、三人で合吟してあげようかと、水をあげながら話をし、又の約束をしてきました。

義理堅く、人情もろく、お人好し、それで一生を通して生きた下田さん……貴女は偉かった。どうぞ安らかに眠り下さい。

あくがれた師の吟胸に旅立ちぬ  
黄泉の道君よ安かれ 悦岳

## 練吟メモ

○木村岳風先生の年譜を拝見すると、昭和八年十月に興國朗吟集皇朝篇を、同九年六月に興國朗吟集漢土篇を發行しています。これはいずれも吟符のないものでしたが、同年十一月に「略符注解付皇漢名詩の吟じ方」第一巻を、翌十年九月に第二巻を發行しました。この時の吟譜は現在もそのまゝ教本に使われていますが、これは木村先生の創案によるものとされています。

○さて、現在の詩吟は「近代吟詠」と呼称し、昭和初期以前の詩吟と区別する場合があります。むかしの詩吟は、絶句を四つに分け、五言ならば五字五字に、七言ならば七字七字に区切って、その余韻を長く引いて止める程度の、素朴な感じの吟法であつたようです。岳風先生は、昭和二年から七年まで、日本全国を数度に亘り詩吟奨励行脚をされたが、同時に各地諸流派の指導者を尋ねては、各流派の真髓に触れ、また、その長所を謙虚に取り入れ、岳風流の充実を図ることに専念されました。

○岳風先生には、ご存知のとおり、別に琵琶に係った経歴があります。二十一歳のとき上諏訪町役場に奉職。職場の先輩と詩吟

に打ち込む傍ら、錦心流琵琶を習いました。一年で上京し、新たに商売に従事しつつ、雨宮薫水（詩吟の現日本国風流宗家）につき錦心流琵琶を約三年修業。奥伝を許され木村碓水という雅号を頂いています。

○ところで、昭和十年ころの琵琶の教本は、文中処々に高・中・低等の音位を示す小文字が付してあるが、詩吟のような音符はありません。師匠からの口伝であつたようです。ただし、鉛筆で詩吟と同じような符を各自適宜教本にメモしていました。

○先生は、吟詠界の先達として、二句三節（三息）とする詩吟の基礎吟法や、そのほか吟変り、最高音位の吟、半高音の吟等の吟法を創案されました。新たに吟符のついた教本が出ると「詩吟」という言葉を知らない昭和初期の世代の者も、国民精神作興運動の波に乗って、吟声はたちまち日本の津々浦々に響きわたるようになりました。

○琵琶歌の吟は、繊細で覇気に乏しいが、木村岳風先生の吟は、烈しく、強く、また吟じ易いということで世に行われました。先生はよく、近代吟詠界の先達と言われているが、これは、昭和の初期から大東亜戦争の前後にかけての先生の努力が、今日の吟詠会の隆盛をもたらしたものであって、ひろく吟聖とたたえられるゆえんです。

### （住所変更）

413 西岡ようこ 新・葉山町長柄七〇五―四一三  
（電）〇四六八―七六一―三三二

### （入会）

791 石塚美耶子 葉山町下山口一三七五  
（一色 A）（電）〇四六八―七五―三三〇一

792 駒場咲子 横須賀市林四―四一六  
（堀内・D）（電）〇四六八―五七―二九七〇

793 小林秀子（再）横須賀市津久井二七五〇  
（逗子 A）（電）〇四六八―四八―五九〇四

794 鈴木シズ 葉山町一色六三四  
（平松）（電）〇四六八―七五―二六八八

795 行谷経子 葉山町一色七六八一  
（一色 A）（電）〇四六八―七五―三一一八

### （退会）

47 下田周風（堀内 B） 67 佐々木幹風（松和）  
迫尻瑞風（堀内 B） 145 一之瀬英風（堀内 C）

306 千葉英泉（滝の坂）

367 鈴木葉山（滝の坂） 414 吉井大蔵（唐木山）

467 藤田弘泉（堀内 D） 486 高橋喜泉（星山）

576 岩藤重泉（星山） 577 野崎美山（星山）

656 野崎博泉（逗子 A） 676 森昭良（逗子 A）

745 福永久子（一色 A）

313 菊地超山（一色 A）より（唐木山）へ  
（移籍）